
バカとテストとゲーム

雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストとゲーム

【Nコード】

N5410M

【作者名】

雨

【あらすじ】

楽観的な主人公と冷静な主人公の二人のそれぞれの視点からおくるストーリー。まだ慣れていないので、滅茶苦茶文が下手ですが、よろしく願います。

プロローグ1

どこまでも真っ暗な世界。

何も無い「無」の世界。

何も無いはずのその世界に、

一人だけ、場違いと言わんばかりの黄色いTシャツ

スポーツ刈りの頭に、ほんのり日焼けした肌。スポーツをしているのだろうか？

17歳の男性、武田勇一はそこに呆然と立ちつくしていた。

SIDE:1 Yuuiti Takeda

勇一は驚いていた。

そもそも自分は死んだはずだ。

何故、こんなところにいる？

ここは天国なのか？

いや地獄か？

死後の世界ってなにもないんだな？。

勇一は突然の事態に混乱していた。

「あんた、大丈夫？」

勇一は呆然とした。

この世界は自分以外誰もいない。そう思っていたからだ。そもそも勇一はこの世界は、何も無い世界だと思っていた。

おかしい。目の前の女性は、黒の髪に黒の目。どこから見ても日本人だった。

・・・誰だ、お前？

「私はあなたのいた世界を創った者よ。出身はあなたとは違う世界。そういう意味では、異世界人だし、神でもある。」

・・・全く意味解らん。

「大丈夫よ。解らなくても全然困らないし」

いや、おれは知りたい。だが、
こういう奴は自分勝手に思いやりがなくて、
通信簿に『人の話を聞きましょう』と書かれているんだ。
ならば俺が大人になって訊いてやるうではないか？

おい、神がなぜこんなところにいやがるんだ？

「私はあなたに、転生してもらおう為現れたのよ。」

マジ？

「マジ」

ありがとう神よ。YESよ。ブツダよ。

「私イエスでも、ブツダでもないから。」

んな事どうでもいい。

それよりも、俺が死ぬ前に返してくれ。

「いや、転生といつてもバカテスの世界よ」

え？……………

…そうか。そうだな。神はいつだって、俺にやさしくないんだ。

「Aクラスに勝てたら、その願いを叶えるわ」

え……………？

「あなたはバカテスの世界で、文月学園のFクラスがAクラス試召
喚戦争に勝利したら、

その願いを叶えてあげるわ」

有り難う神よ、godよ。

俺は嬉しい。

「だけど、ルールがあるわ」

ルール？

「まず、期間は高校二年生の始業式から、高校二年生の終業式まで。期間が過ぎていた時点で、勝利していなかったから失格よ。」

次に、高校二年生までに文月学園に入学、転入しないと即失格。

また、高校二年生の時に転校した場合も失格。

最後に、バカテスの登場人物、名前が一度でも登場した人物に、自分が転生したと言ってはいけない。

言ってもいいけど、絶対信じてもらえないわ。」

OK。そんなルールどうでもいいから、

早く転生させる。いやしてくれ。

「それじゃあ二つ、転生後の身体能力、容姿、家の財産、なんか叶えてあげるわ。」

でも、『頭をよくして欲しい』『不老不死になりたい』は無理」

不老不死は解るがなんで頭を良くするのはダメなんだ？

「簡単になっちゃうじゃない。」

いつきに難易度が下がっちゃうわ」

・・・どうやらこいつは、他人の人生を『ゲーム』と思っているらし

い。

「で、要望は？」

ううむ、

まず兄一人、弟一人、母一人、父一人の5人家族にしてくれ。

二つ目は、家庭はある程度裕福な暮らしが出来る家にして欲しい。

「それで良いの？」

ああ。

「わかった。それじゃバカテスの世界にとばすわね。」

ああ。

「ああそれと、Aクラスに勝てなかったりして失格になったら、

死んでもらうから」

ああ。・・・ってちよお前、ってうわああああ。

「健闘を祈ってるわ」

そうして何も無い空間に、女がつぶやいた。

プロローグ2

side:1 Yuuiti Takeda

勇一はバカテスがあまり好きではない。

本屋で第一巻を立ち読みした時は、もちろん面白かった。続きが気になるものの、立ち読みは疲れる。

かといって、バカテスを買うだけのお金が惜しい。

そこで勇一は、バカテスの二次創作を読み漁った。

これならばお金がかからないで済み、立ち読みのように疲れる事もない。

まさに一挙両得だった。

しかし、二次創作といえる二次創作を読み漁ったおかげで飽きてしまった。

何故あんなにもバカテスを読んでいたのだろうか？

それ以来バカテスを読んでおらず、半年は経ったのではないだろうか？

半年間、某虚無の魔法使いが活躍する小説にはまってしまった。

つまり原作の知識が曖昧なのだ。

Dクラスと戦ったとき、どうやって勝ったか覚えてないし、

Bクラス代表の本名を思い出せない。『卑怯者』とだけは覚えているが。

このように穴だらけの記憶は役に立ちそうにない。

そもそも歴史通りに進むのだろうか？

自分が起こした行動が後になって、どう響くかさえ分からない。

もはやそれほど頼りにならないと思う、原作知識。

さて、頼りにならないと思っても、非常に悔やまれる。

myブームが半年遅れてさえいればと、思ってしまったものだ。

しかし、いくら後悔しても無駄なので今できることをやるうてはな
いか。

そう、勉強である。

勇一はそもそも学業を得意としない。

高校生に入った途端に、成績が急落下したのである。

だから、セカンドライフは勉強もすっかりしなかった。

しかし、期限まで後10年以上ある。

勇一は夏休みの宿題を最後まで残すタイプだった。

なにが言いたいかと言うと、

「・・・明日また頑張ろう」

高校の数学の参考書を読んで10分後、

呆気なく終わった勉強。

全く理解できなかったのだ。

なので明日に保留。

勿論、何もしないのに問題が解けるようになっていく訳でもなく、
次の日も、次の日も、どんどん勉強時間（勉強ですらない）は減っ
ていき、

3分、1分、四日後には参考書さえ開けなくなった。

まさしく三日坊主。

中学生のところからやり直せばいいのに、妙なプライドがそれを邪魔していた。

結局、高校生になってしまった。

猶予は後一年なのに、Eクラス並の学力しかなく、

泣く泣く一年間勉強した時は、小4の時に計算ドリル以外、宿題終わらなかつた8月31日の時に

感じた後悔よりも遙かに強く後悔した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5410m/>

バカとテストとゲーム

2010年10月8日14時03分発行